

# 平成29年度尚志館高等学校自己評価表

尚志館高等学校

教育基本方針	校訓『不屈不撓』の精神をバックボーンに、各自の資質を高め、国や社会に貢献できる人間を育成する
教育目標	志を常に高く持ち、多様化する時代に即応した教育、変化する社会の要請に応える教育、知・徳・体の調和のとれた教育により、生きる力を身につけ、国や社会に貢献できる人間を育成する
努力目標	①学習指導を徹底し、学力の向上を図る ②生活指導を徹底させる ③きめ細かな進路指導の徹底により、学力・適性に合った進学就職の実現を図る ④部活動の推進・強化

## 1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的効果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学校教育目標と経営方針	学校教育目標の具現化	教職員間の共通理解のもとに、教育目標の実現を図る	課題や生徒の実態をふまえた目標を設定し、具現化に努める	3.3	全職員が一致団結して協力できるのが尚志館の強み、という意見がある一方で、共通理解が足りない、全体としてのまとまりに欠けると言う意見がある。生徒の実態も多様化しているため、共通理解を図りきめ細やかな指導をしていく必要がある。そのためには、まず各科のまとまりをもっと高めたい。

## 2 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学級経営	学級目標の具現化	学級目標に沿った学級作りを行う	学校目標や学級実態に応じた学級経営・ホームルーム活動を行う	3.4	時間厳守などはじめある生活を目指し取り組んだことで、クラスがまとまり、学校行事などにチームとして取り組めた。担任側からみて、担任ができない部分を副担任がよくサポートしてくれたという半面、副担任の側からは担任に遠慮してしまったという反省もある。
教科指導	わかる授業展開と工夫改善	創意工夫された学習指導の実践	シラバスを作成し、学習目的や学習方法を生徒に説明する 効果的な授業を行うために教材研究や研修を深める	3.5	理解度・到達度は個人差が大きく、生徒それぞれにあった学習法の確立が必要である。特に家庭学習にばらつきがあるため家庭学習まで含めた指導法を検討していきたい。授業についての生徒への説明を、もっとしっかり行ないたい。 若手教員を中心に研究授業が実施されたのはよかった。授業を見てもらったり、見せてもらうことでとても勉強になった。今後も教材研究を深め、分かりやすい授業を、心掛けたい。
特別活動	生徒会活動・学校行事の充実	生徒会活動の充実 学校行事の充実	生徒の自主性・自発性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる 効果的な学校行事になるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する	3.6	文化祭やクラスマッチ、生徒会新聞の発行など、生徒自ら動くという活動が少しずつではあるが、高まってきている。今後も、より主体的に活動できるよう助言していきたい。 6学科あり各行事の実施は時期を決定するのが難しいが、時期、日程の調整について、担当者間で相談しながらより有意義になるよう心がけた。体育大会は生徒の意見も大事にしながら、規律ある運営ができた。他の行事も生徒中心に考えられており、生徒も生き生きとした表情で参加している。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	尚志館生としての意識を持たせ、自信と誇りの持てる生徒を育成する	基本的な生活の確立を図る 交通ルールの遵守、ネットモラルなど安全教育の徹底	3.4	年々指導は難しくなっている。押しつけるような指導は、もはや通用しない。日常の丁寧な言葉かけを、根気強く続けることが大事である。 大きな交通事故・交通違反こそなかったが、バイク通学生の交通安全の意識高揚・啓発が必要と強く感じる。また、いじめの発生はなかったが、ネットのトラブルが数件発生した。もっとネットモラルを高め、責任をもった行動をとるようにさせていきたい。
進路指導	進学・就職指導の充実	系統的・計画的な進路指導の実践	進路実現のために、個別指導や進路相談・三者面談などを計画的に行う 生徒の能力や適性に合った進学・就職指導	3.7	進路に対する意識をもたせるため、1・2年次から外部講師によるガイダンスを実施している。また、オープンキャンパスや企業見学への積極的な参加は進路の実現に大いに役立ってきている。ただ、生徒の能力・適性に合った多様な助言・課題を工夫する必要がある。そのためには自分自身のスキルアップが大事である。
保健衛生	心と身体の健康に留意させ学習環境を整える	保健指導の徹底 体育指導の徹底 防火・防災訓練 環境衛生の整備	心と身体の健康を適切に管理する能力を育てる 運動技能を高め、体力向上を図る 防災についての意識の高揚を図る 学習にふさわしい環境を整える	3.3	心の健康に問題をもつ生徒が増えつつあるように感じる。日々の生徒との関わりの中で、早期に発見し対策すべきである。また、家庭での状況把握、保護者との共通理解・連携も必要である。ゴミ分別については、居住地域やクラスによって分別に対する意識に差があるものの、担任の先生方の協力もあって、かなり改善されてきた。しかし、継続して指導していく必要がある。
広 報	広 報	定員確保のための広報活動の推進	入学案内・パンフレットの作成 中高連絡会・体験入学の実施 中学校訪問・学習塾訪問・説明会の実施 ホームページ・Eメールの管理 PTA・中学生の訪問受け入れ	3.3	パンフレットは見やすく、体験入学など年々内容も工夫されており、学科の特色を中学生にアピールできたと思う。少子化で厳しい状況の下、定員確保を目指し地道な広報活動と日常の生徒の指導を、全教職員あげて取り組んだ。このような社会情勢の中で定員確保は今後も難しくなると思われる。“日々は生徒募集”を念頭に、教育活動に万全を期すとともに、引き続き地道な広報活動が必要であると思う。
部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への積極的参加を奨励し、学習との両立を図る 活動を通して、コミュニケーション力を高め、たくましい人間に育てる	3.5	少子化そして入部率の低さも各部とも部員確保が、大きな課題である。また、学業との両立がうまく図れない生徒もいる。部活動を通じて、運動能力や技術の向上だけでなくコミュニケーション力を高め、生活態度をしっかりとらせることができている。また、部活動生の力が学校を元気に明るくする原動力になっており、様々なところで貢献している。
評 価				3.4	

